

生きがい労働事業団と西成陶工の取り組み

街づくりの進展による雇用の場の創出が生きがい労働事業団を生み出した

高齢者が楽しく仕事をすることによって交流を深め、生きがいのある健康で明るい生活を獲得し、自立と社会参加が進むことを目指して、1995年(平成7年)9月に高齢者64名で「生きがい労働事業団」が設立されました。生きがい労働事業団は「西成地区街づくり委員会」の中の就労部会での検討から始まっています。地区内に福祉施設が建設され、街づくりが進むと雇用の場が生まれ、それを受皿に地域の人たちの多様な働き方が生みだされ、そこで就職困難な高齢者や障がい者、母子家庭の人たちの雇用創出を図るために事業団の設立へと発展してきました。

仕事がないと生活ができない、年をとっても仕事がしたい高齢者

当時の高齢者を取り巻く状況は、高齢者の仕事は少なく、さらに無年金者が一般地区に比較し多いのが現状で、そのため仕事をしなければ生活ができない、だが、仕事はないという状況でした。(「西成地区生活白書 —1990年同和地区生活実態調査結果報告書—解説編」(大阪市同和事業促進西成地区協議会・大阪市立西成解放会館/1992年4月)。また一方、「やりたい事」の第1位は旅行、第2位は“仕事”、第3位はカラオケで、年をとっても「仕事をしたい」という希望、生きがいとしての「労働」へのニーズは高いことがありました。

- **高齢者の実態…高齢者の寿命が短く、4世帯に1世帯が「一人暮らし」**

- ・西成地区の65歳以上の高齢者は14.6%で、大阪府9.3%、大阪市10.3%を大きく上回っています。ただ、後期高齢者(75歳以上の高齢者)は35.4%と、大阪市(38.6%)より低く、高齢者の寿命が大阪市平均より低いことを推測させる状況です。
- ・世帯は「一人暮らし」(28.4%)が4世帯に1世帯以上と、大阪市(19.5%)よりも格段に高い。また、高齢者世帯が全世帯26.2%と4世帯に1世帯と、大阪府の約2.6倍、単身世帯では約6倍となっています。

- **就労の実態…3人に1人が「仕事をしたい」**

高齢者のうち「働いている」は19.9%とほぼ5人に1人で、大阪市の25.5%よりも低くなっています。特に65歳~69歳では「働いている」が大阪市39.0%に対し西成地区は28.5%と10ポイント以上の差があります。働いていない人のうち、「仕事をしたいと思っている」は34.5%(303人)で、いま仕事を探している人は1割の30人となっています。

- **年間世帯総収入…単身世帯の6割近くが年間総収入は「100万円以下」**

単身世帯の56.4%は「100万円以下」、「200万円以下」では87.9%、また高齢者夫婦のみ世帯でも「200万円以下」は64.2%と苦しい生活状況となっています。

- **高齢者の年金…4人に1人が無年金者**

年金状況は、60歳以上で厚生年金受給者は男性27.0%、女性21.3%、国民年金は男性34.1%、女性45.0%となっていますが、無年金者は男性25.5%、女性23.6%と、

ほぼ4人に1人が無年金者となっています。

会員数は設立当初から8年後の現在(2003年)、4倍以上に会員が増加するほど高齢者の労働意欲は高い

こうして発足した生きがい労働事業団は設立当初の50人余りが2003年には会員も増加し230人となり、事業の内容も公園などの定期清掃・各種施設管理などの事業をはじめ、健康増進事業なども定期的に行っています。

<定期清掃・各種施設管理など>

■公園の定期清掃

7班で分担して、地域26カ所の公園の定期清掃

■老人の憩の家の管理清掃

出城・松之宮、長橋老人憩の家の管理・清掃・利用者接待

■駐車場の管理清掃

地域13カ所の一般駐車場の除草・清掃・適正使用の点検などの管理清掃

■西成区老人福祉センターの清掃

館内及び外周の清掃

■市営住宅の清掃

市営住宅内の除草・清掃作業

■地域清掃

地域野道路や公共施設の周りなどの清掃

■南津守中央・さくら公園の清掃

公園の定期清掃

■障害者会館送迎バスの運転

利用者の送迎

■特別養護老人ホーム“すずらん”の宿直・洗濯

夜間管理にかかる宿直と、施設入居者及び利用者の衣類の洗濯

■西成人権文化センター・西成青少年会館の宿日直

夜間管理にかかる宿直と休日の日直

■保育所の清掃

長橋第1・長橋第2・長橋第5・北津守・松之宮・松之宮北の6保育所の清掃

■機関紙の発送準備

機関紙を部数ごとにまとめ、発送する準備

■レンガ・タイルの製作(西成陶工)

北津守の生きがい学習センターにおいて、公園遊歩道などに敷くレンガ・タイルの製作

図. 公園の定期清掃



図. 保育所の清掃



図. 市営住宅の除草



<会員同士のふれあいや、健康増進事業など>

- 健康診査
年1回の健康診査
- 各種交流大会、懇親会
定期的な会員同士の親睦会や交流会の実施
- 講習・学習会
講師を招いての公園や学習集会をかいさいし、新たな「生きがい」発見の場を創出

西成陶工の「技術」が、レンダリングから発生する「産業廃棄物」を津守焼に創出

生きがい労働事業団設立当時は登録者・登録希望者の数に比して仕事の量も少なく、労働の内容も「公園清掃」に限られ、必ずしも高齢者の多様なニーズに対応できていないという指摘があり、さらなる職域の拡大が求められていました。そうしたなか、地場産業のレンダリングで生じる産業廃棄物を付加価値の高い製品開発へのリサイクル活用と、労働を通じて「生きがい」「働きがい」を求める高齢者の「場」とを、街づくり委員会がマッチングさせることによって、生きがい労働事業団設立から2年後の1997年6月に、『西成陶工』は設立されました。

レンダリングから発生する「産業廃棄物(獣サイ処理物：牛骨)」の活用と、「高齢者のものづくり(手づくり)の技術」が融合し、「津守焼」という新たな地場産業を生み出しています。西成ブランドのタイル“津守焼”^{*}の製作は、地元の高齢者、障がい者を中心に“Art for Life”をテーマに幅広い創作活動に取り組んでいる陶芸家吉野義隆氏の指導監修のもとで行われました。原材料の粘土を練る段階から骨灰の混合、型抜き、施釉、そして燃焼にいたる一連の作業工程を全て手作業で行い出荷するという、まさに100%手づくりタイルの生産です。いわば西成陶工の職人技と北欧の伝統的手法から生まれたれんがタイルといえます。

^{*} “津守焼”については、西成百話第29話で詳細を示しています。

図. タイル製作に取り組む西成陶工の高齢者

